

News Letter



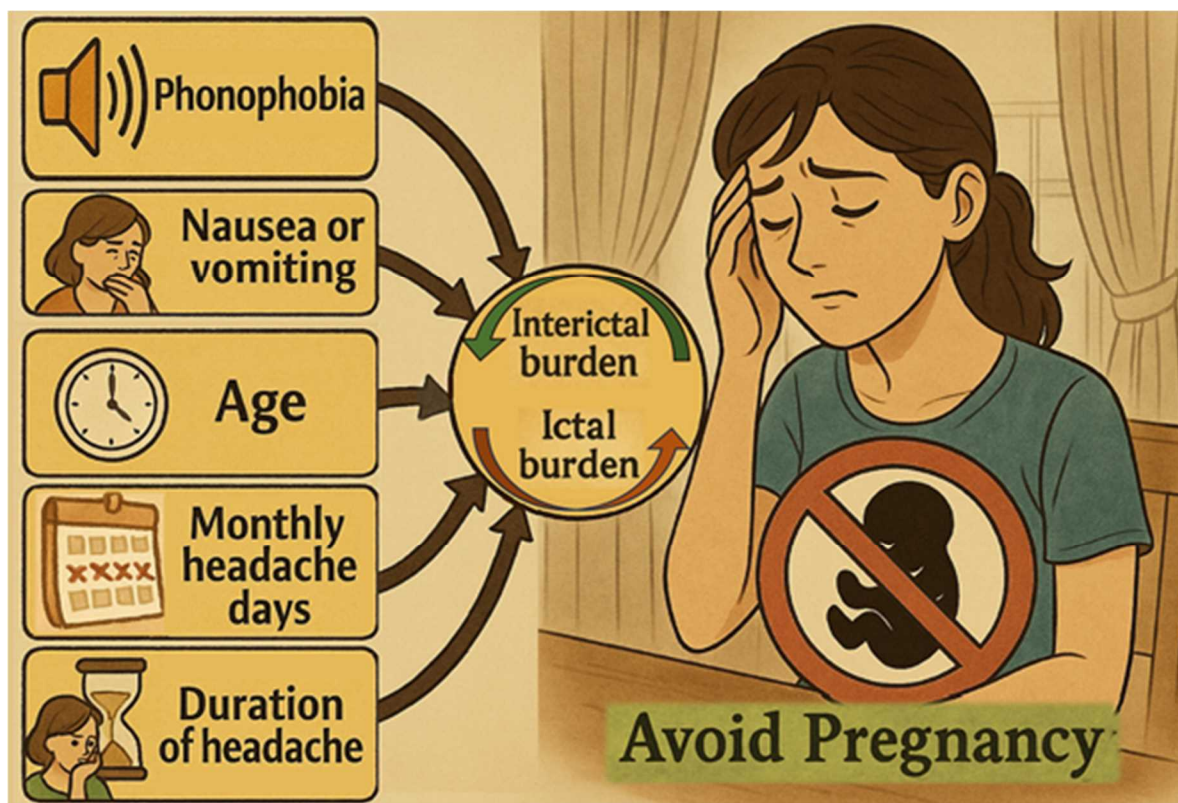
令和7年 8月26日

報道機関各位

頭痛が妊娠計画に与える影響を日本で初めて明らかに
— 頭痛で妊娠を避けた女性 3.9%、重症頭痛が出生意欲低下に影響 —

■ポイント

1. 頭痛が妊娠計画に与える影響を日本で初めて調査
2. 女性の 3.9% が頭痛を理由に妊娠を避けた経験があることが判明
3. 頭痛の重症度や感覚過敏症状(吐き気・嘔吐、音過敏)が妊娠回避と関連
4. 頭痛による妊娠・育児への不安、頭痛薬の胎児への影響懸念が妊娠意欲の低下に
5. 頭痛と出生意欲の関連を明らかにした日本初の報告で、少子化対策にも示唆



画像説明: 頭痛の症状、例えば音過敏や吐き気は、頭痛発作中だけでなく、次の頭痛を不安視する要因となり、結果として出生意欲の低下や妊娠回避につながる可能性があるという仮説を立てました。(画像は論文から引用; Licensed under CC BY-NC-ND 4.0.)

■概要

獨協医科大学 脳神経内科の鈴木圭輔教授らと長岡技術科学大学 体育・保健センターの勝木将人准教授らの研究グループは、燕市(新潟県)の小中学校を通じて実施したオンライン調査により、女性保護者の 3.9%が頭痛を理由に妊娠を避けた経験があることを明らかにしました。特に、頭痛の発作頻度が高く、吐き気・嘔吐や音過敏を伴う保護者で妊娠回避の傾向が強くてました。妊娠・育児への不安や頭痛薬の胎児への影響への懸念も関連していました。

本研究成果は、日本の少子化問題における「社会的要因による出生意欲低下」に頭痛疾患による生活への負担が関与する可能性を示す重要な知見であり、頭痛を持つ女性や家族における妊娠前相談や頭痛管理の重要性が示唆されます。

本成果は、2025 年 7 月 4 日付で欧州頭痛学会誌「The Journal of Headache and Pain」のオンライン版に掲載されました。

■研究の背景

日本の出生数は減少傾向にあり、出生意欲の低下が大きな要因とされています。出生意欲に影響を与える因子の一つに、病気が挙げられます。これまで、頭痛と出生意欲の関連は海外で報告があるものの、日本国内のデータはありませんでした。本研究では、生活への支障が大きい疾病第 2 位である頭痛を持つ保護者の妊娠計画への影響を明らかにすることを目的に調査を行いました。

■研究の内容・成果

対象と方法: 2024 年に新潟県燕市の小中学生 5,227 世帯を対象にオンライン調査を実施し、頭痛のある保護者 599 名(うち女性 562 名)を解析。

主な結果:

562 名中 22 名(3.9%)が「頭痛が原因で妊娠を避けた」と回答。

妊娠回避群は、年齢が高く(回答時の年齢中央値 47 歳)、頭痛日数が多く(月 4 日)、頭痛持続時間が比較的短く(4 時間)、吐き気・嘔吐、音過敏を伴う頭痛が多い傾向にあった。

妊娠や育児が「頭痛で困難になる」との不安、頭痛薬が「胎児発育に悪影響」との懸念が強い傾向が、頭痛を持つ女性で特に強くみられた。

■今後の展開

頭痛患者における出生意欲低下の要因を明らかにした本研究は、頭痛を持つ女性やその家族における妊娠前カウンセリングや適切な頭痛治療が出生意欲回復に役立つ可能性を示しています。特に片頭痛は新しい予防治療薬が次々に登場していることから、治療によって今後の日本の出生率を回復することに役立つ可能性があります。今後、日本の出生率を改善する活動の一環として、頭痛疾患に関する全国規模の調査・啓発や、妊娠期・授乳期の頭痛管理ガイドラインの検討が重要です。

■論文詳細

論文名 : Do headaches impact pregnancy planning behaviors? A cross-sectional school-based study in Japan

(日本語タイトル: 頭痛は妊娠計画に影響するか? 学校調査による解析)

掲載誌 : The Journal of Headache and Pain

掲載日 : 2025 年 7 月 4 日

著者 : Masahito Katsuki, Yasuhiko Matsumori, Muneto Tatsumoto, Keisuke Suzuki, 他

DOI: <https://doi.org/10.1186/s10194-025-02100-5>